

長命ヶ丘地区社協だより

令和7年7月発行

長命ヶ丘地区社会福祉協会
発責：秋保 明

5月13日

令和7年度定時総会を開催しました

5月13日(火)午後7時から中央集会所を会場にして本年度の定時総会を開催しました。理事・評議員・顧問の方々に多数ご出席いただき、事務局がお諮りした議案についてはすべてご承認いただきました。

役員一同、事業計画に沿って今年度の活動を推進してまいりますので、今後とも皆様のご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。長命ヶ丘地区社会福祉協議会役員一同



2025年度会費納入にご協力を

皆様からの会費は、地区社協、町内会、各種地域活動団体への助成を通じて、多くの活動を支えています。今年度も何とぞご協力をお願いします。

(参考) 2024 年度会費納入状況一覧

A:「地区社協会費」(年額 40 円/世帯)

B:「仙台市社協会費」(年額 300 円/世帯)

C:「納入額計(A+B)」(単位:円)

	A	B	C
1丁目	15,800	68,100	83,900
2丁目	10,120	75,900	86,020
3丁目東	12,000	90,000	102,000
3丁目西	12,720	95,400	108,120
4丁目東	8,800	66,000	74,800
4丁目西	16,000	0	16,000
5丁目	12,800	96,000	108,800
6丁目	12,240	91,800	104,040
長命ヶ丘東	5,200	39,000	44,200
総計	105,680	622,200	727,880

地区社協リーフレットを作成

長命ヶ丘地区社会福祉協議会では、「社会福祉協議会(略して社協)」がどのような活動をしているのかを詳しく知っていただくために、この度「長命ヶ丘地区社協リーフレット」を作成し、地区内の全戸に配布いたしました。

地区社協では、赤ちゃん、子ども、成人そして高齢者まで、地区内のすべての人の

「ふだんの」

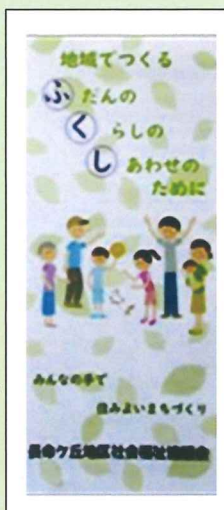
「くらしの」

「しあわせのため」

さまざまな活動を行っています。

ぜひご一読いただき、当会へのご支援ご協力をお願いいたします。

なお、ランチ・ウエスト1階「まちづくりスポット仙台」にも置いてありますので、ご利用いただくようご案内いたします。



6月14日

研修会の開催 「人＝地域のお宝」

6月14日（土）午前10時から中央集会所を会場にして、町内会会長・民生児童委員・福祉委員を対象に、研修会兼第1回推進会議を開催しました。

認定NPO法人「まちづくりスポット仙台」の事務局長 岩間友希 氏を講師に、「人（地域のお宝）が地域をつなぎ、支えます」と題して講義していただき、①地域で活動している人あるいは活動してみたい人がつながり合い、刺激し合って助け合うことが大事であること、②サロン活動など身近な活動は「出入り自由」で誰にでも開かれた場であることが大事であることを、具体例をもとに説明を頂きました。その後グループディスカッションを行いました。各グループとも町内会長・民生委員・福祉委員で構成されており、それぞれの立場からこれからのサロン活動などの活性化について話し合い、お互いに共通理解を深めました。



講師 岩間 友希 氏



本間さんのミニ福祉講座 シリーズ3

人生を豊かに生きる(最終回)

本 間 照 雄 氏（民生児童委員／地域福祉研究所主宰）

三回に分けて『人生を豊かに生きる』をテーマにしてお話しさせていただいている第三回目は『災害は忘れたころにやってくる！』です。言わずと知れた物理学者 寺田寅彦 の言葉です。

14年前の東日本大震災、さらにさかのぼるとブロック塀倒壊が多発して多くの犠牲者が出た昭和53年6月宮城県沖地震（震度5、M7.4）から47年経っています。最近では、令和6年1月の能登半島地震、そして大船渡市の大規模森林火災があります。

昨今は、『災害は忘れたころ』ではなく、日常的に起きていると言っても過言ではありません。災害が起きるたびに、大きな犠牲を出したところと、そうでないところがよく取り上げられます。その違いはどこにあるのかが今回の主題です。

災害は『地震や津波（危険因子）』と『社会の脆弱さ』の重なった部分に発生するという考え方があります。

人と人との関わりの希薄さ、お互い様の欠如、日頃からの防災意識の弱さ等々が、災害を大きくするという『災害は社会的な現象で社会的に構築される』との考え方です。私自身の南三陸町での被災者支援体験や能登半島地震被災地視察では、まさにこのことを証明するかのようことが多々ありました。

私たちの身の回りに生じる不安のもとにあるのは、災害だけでなく、『遠くの身内より近くの他人』が現実的な地域生活です。こうしたことを考えると、防災対策と地域福祉の推進は、密接不可分です。こうした地域生活の現状を考えたとき、「お互い様」の意識や「結い」の習慣等は、貴重な東北の生活文化であるとともに、我々社会の「強み」なのではないかと思っています。震災体験をどのように地域福祉の推進に生かすのか、長命ヶ丘地区社協の役割はこのようなところにもあるように考えています。